平成３１年度　学校経営計画　足立区立千寿本町小学校

学校長 増 田　好 範

１　学校教育目標

○つよく　　心身ともに健康で勤労と責任を重んずる子供
○かしこく　　自主的・意欲的に学習し創造性豊かな子供
○あたたかく　　人間性豊かで人権を尊重する子供

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童一人一人の学力向上を実現する学校 ・子供が自ら成長を実感できる　・言語活動を重視して力を伸ばす ○当たり前のことを当たり前にできる学校 ・児童にとっての当たり前・教職員にとっての当たり前・保護者にとっての当たり前 ○地域のために貢献できる学校 ・学校は地域のもの　・教師も子供も地域貢献を実践する
○児童・生徒像	○基礎・基本をしっかり身に付け　自らめあてをもって　意欲的に学習に取り組む児童 ○自分に自信をもち　情操の豊かな児童 ○心身ともに健康で　のびのびと活動する児童 ○きまりを守り　友達を大切にする児童
○教師像	○信頼し合い　認め合い　協力し合って指導に取り組む教師 ○教師力向上のために　絶え間なく努力する教師 ○児童一人一人を大切にし　確かな人権感覚を身に付けた教師 ○保護者や地域のニーズに敏感に対応し　三者連携のために努力を惜しまない教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

○確かな学力の定着

教師一人一人の指導技術の向上をめざし、ＯＪＴを充実させ、授業改善に積極的に取り組んできた。また、学習につまずきのある児童に焦点を当てて、個別指導を充実させてきた。区学力調査の結果は、全国値の正答率を 50 とした標準スコアに対して、国語・算数とも全学年で 50 を大きく上回り、良好な結果であるといえる。標準スコアの全学年平均を見ると、国語は 55.0、算数は 57.0 で算数の方が高く、習熟度別指導や繰り返し学習、個別指導、ノート指導の充実などが成果につながった。本年度は、本町タイムや自学ノートの指導をさらに充実させ、既習事項の習熟の徹底や自ら学びに向かう姿勢の醸成を図るとともに、ポートフォリオ等を活用して児童一人一人の課題を明確にした指導を続けていく。また、「言葉で考える力」、「言葉で表現する力」の向上のために、新聞の一層の活用や暗誦・俳句作りなど語彙の拡張を図るための指導方法の工夫を継続していく。

○体力・運動能力の向上

オリンピック・パラリンピック教育の更なる充実を図るとともに、体力・運動能力については、柔軟性や瞬発力、投力など更なる向上を目指して外部との連携、場の確保、指導方法並びに用具等の充実を含む学習環境の改善に積極的に取り組むことが必要である。

○安心して生活できる環境づくりと個別支援教育の充実

いじめ・不登校等、一人一人の心の問題に注目し、さらにきめ細やかで迅速な対応が進めていけるよう取り組みを充実させる。そのために、システムの構築や関係諸機関との連携とともに、教員の児童理解、教育相談への力量を高める。特別支援教育については、コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーの助言や難聴言語担任のかかわりによる全校体制での取り組みにより、コミュニケーション教室での指導が充実してきている。各家庭の理解推進のもと、ニーズのある児童が適時適切に支援を受けて苦手を克服し、力を伸ばしていけるように啓発を進めていく必要がある。

○教師力の向上

若手教員の増加に対応するとともに、中堅・ベテラン教員の恒常的な教師力向上を図るため、若手教員の指南役を務める中堅・ベテラン教師の意識と意欲の高揚によりＯＪＴを一層充実させ、若手教員の基礎的指導技術の確実な習得と全教師の教育課題や児童の実態を的確に踏まえた指導力の向上を図っていくことが必要となる。

○保護者地域との連携

子供の教育に高い関心をもち、学校の活動に協力的な保護者の割合が、極めて高い。基本的な生活習慣の定着をはじめ、学校と家庭の指導の方向性の共有など、引き続き、様々な形で啓発活動を行っていく必要がある。地域住民は、学校の活動に大変協力的で、積極的に関わっていただいている。町会の青少年部の活動もとても盛んで児童の健全育成に大変意欲的に取り組んでいる。今後も連携を密にし、地域の資源や人材を十分に生かし、協力して教育活動を推進していくことが必要である。

４　重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上	○	○	○	○	○
2	オリンピック・パラリンピック教育の推進	○	○	○	○	○
3	教員の授業力の向上		○	○	○	○
4	安心して生活できる環境づくりと個別支援教育の充実		○	○	○	○

５　平成３１年度の重点目標

重点的な取組事項－１	「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上

Ａ 今年度の成果目標	平成３１年度区学力調査 目標通過率（学校平均）
教師の指導力を向上させ、授業改善に学校全体で取り組むとともに、一人一人の課題を把握し、補習時間や家庭学習の充実に努め、児童の「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上を図るとともに、一人一人の課題を把握し、特に「基礎学力」に課題のある児童への対応を一層充実させる。	通過率　８３％以上

Ｂ 前年度の取組み内容

項目	具体的な方策
「基礎学力」（読み、書き、計算）の確実な定着を図る。	○本町タイム（週３回）で音読・暗誦、計算、視写、新聞活用、俳句作りを実施する。 ○毎日の宿題の内容を工夫し、家庭学習の習慣を確実に身に付けさせる。自学ノートづくりを推奨する。 ○そだち指導と連動した指導を図る。
言語活動の重視で「思考力・判断力・表現力」の向上を図る。	○「話して書いて伝え合う」授業を心がけ、「話し合い」では、ペア・グループ・全体など、場の工夫を行い、自分の考えを伝える時間の確保を図る。 ○ノート指導の徹底（記述スピードと自分の考え）を図る。 ・足立スタンダードに基づく授業ノート ・ノートコンテストによる学び合い ○年４回の読書週間により読書への意識付けを行う。 ○体験的学習や問題解決的な学習の充実を図る。

Ｃ 前年度の成果と課題

○国語・算数のワークテストで到達目標値８０％を国語で８８％、算数で８６％の児童が上回ることができた。
○区学力調査において各学年の平均正答率は、区の目標値をすべての学年で上回った。通過率は、国語８２．２％、算数８７．９％で、算数は目標通過率８３％を上回ったが、国語は若干下回る結果となった。しかしながら、２教科平均通過率の区平均通過率との差は、過去５年間で最も上回りが大きい結果となった。
○ノート指導の徹底を図るとともに、話し合いの機会の充実と場面の工夫により、思考力・表現力の向上に繋げることができた。
○年４回の読書週間により読書への意識付けを行うことができた。
◆「言葉で考える力」、「言葉で表現する力」の向上のために、語彙の拡張を図るための指導方法の開発や家庭学習の見直しを図っていく。また、新聞の活用について一層の工夫を図る。

Ｄ 今年度の目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
「基礎学力」（読み、書き、計算）の確実な定着を図る。	○国語・算数のワークテストで８０％を到達目標値とし、全児童の８３％が達成できるようにするとともに、区学力調査において、通過率８３％を上回る。	○本町タイムで音読・暗誦、計算、視写、俳句作り（芭蕉タイム）を実施する。 ○毎日の宿題の内容を工夫し、家庭学習の習慣を確実に身に付けさせる。自学ノートづくりを推奨する。 ○そだち指導と連動した指導を図る。

言語活動の重視で「思考力・判断力・表現力」の向上を図る。	○自分の考えを書き伝え合う授業を、３年生以上で年間１０回以上実施する。 ○３年生以上で、新聞を活用した授業・指導を実施する。	○「話して書いて伝え合う」授業を心がけ、「話し合い」では、ペア・グループ・全体など、場の工夫を行い、自分の考えを伝える時間の確保を図る。 ○ノート指導の徹底（記述スピードと自分の考え）を図る。 ・足立スタンダードに基づく授業ノート ・ノートコンテストによる学び合い ○新聞の利用で活用力の向上を図る。 ○年４回の読書週間により読書への意識付けを行う。 ○体験的学習や問題解決的な学習の充実を図る。

※別紙　学力向上アクションプランにより取り組みを推進する。

重点的な取組事項－２	オリンピック・パラリンピック教育の推進

Ａ 今年度の成果目標	**達成基準**
オリンピック・パラリンピック教育を通して、学力や体力の向上を図るとともに、自国文化理解、国際理解、障がい者理解を進める中で、他人を思いやる気持ちや共に助け合って生きようとする態度を育成する。	○内部評価における肯定的評価が９０％を上回る。

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	**達成基準**	**具体的な方策**
体育的活動等の工夫・改善に取り組み、児童一人一人が運動に意欲的に取り組むようにする。	○児童アンケート調査で、運動に意欲的に取り組むということに関し肯定的な回答が 90％を上回る。	○体育朝会、体力パワーアップタイム、休み時間や放課後の遊び等の充実を図り、児童が進んで運動に親しめ場を増やしていく。 ○体幹を鍛え、調整力を身に付けることで「投力」を高めさせる。
オリンピック・パラリンピックに関する教育や国際理解教育に取り組む。	○オリンピック・パラリンピック教育を総合的な学習の時間のひとつの柱として実施する。 ○国際理解教育に関する授業を全学年対象に実施する。	○オリンピック・パラリンピック教育全体計画に基づき、「どんな方法で」「どんな力がつくか」を明確にした授業を実践する。また、レガシーを確実に残すための指導の工夫を図る。 ○オリンピック・パラリンピックの精神や歴史などについて、調べ学習・発表学習を行う。 ○ゲストティーチャーによる授業を通して、異文化理解・国際協調などについて学ぶ。
食育や保健指導の充実を図るとともに、保護者に対しても積極的に発信し、連携して児童の健康に関する意識の改善を推進する。	○各学年で、養護教諭や栄養教諭が、５回以上健康に関する授業を行う。また、保護者対象の健康に関する講演会等を開催する。	○体育科の授業や健康診断の機会、給食前の時間を活用し、養護教諭・栄養教諭が中心になり、食育や健康教育を実施するとともに、保護者対象の健康に関する講演会等を開催する。 ○ＳＯＳ教育やがん教育など、新たな課題に関する実践を充実する。

重点的な取組事項－３	教員の授業力の向上

Ａ 今年度の成果目標	達成基準
ＯＪＴ等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりに向けての工夫・改善に取り組む。	○内部評価における肯定的な評価が９０％を上回る。

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりに向けての工夫・改善に取り組む。	○年間６回授業研究を行う	○ＩＣＴを活用した分かりやすい授業づくりについて、検討・実践する。 ○ベテラン教員による研鑽塾の実施と教科専門指導員の定期指導により、若手教員の基礎指導力を育てる。 ○外国語活動について、年間を通して計画的に研修を実施する。
幼保小連携の推進で、低学年の指導の工夫改善を図り、学力向上を目指す。	○研修内容や交流活動の改善を図り、工夫した交流研修・交流活動を実施するとともに、全教師が幼稚園・保育園の指導を参観する。	○交流活動や交流研修を中心に、互いに意見を出し合いながら内容を充実させるとともに、相互に参観する機会を設けることで発達段階や指導方法への相互理解を深める。
小中連携の推進で、学習指導・生活指導の工夫改善を図り、学力向上・健全育成を目指す。	○小中連携第三期３年計画の第１年次として、７回の全体会・分科会を通して、研究・実践を進める。	○教科・領域ごとの部会を設け、新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」について３校合同で検討し、授業実践を通して指導力を高める。

重点的な取組事項－４	安心して生活できる環境づくりと個別支援教育の充実

Ａ 今年度の成果目標	達成基準
いじめ･不登校への迅速･的確な対応を進めるとともに、学習面・行動面で配慮を要する児童への対応・体制の工夫、改善を進め、個別支援教育の一層の充実を図る。	○内部評価における肯定的な評価が９０％を上回る。

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
いじめの根絶と不登校の早期解消に努める。	○学年末の段階でいじめ・不登校の解消率を１００％にする。	○年３回のアンケート調査と迅速かつ丁寧な聞き取り・継続指導の実施。 ○パンダポスト（相談箱）の有効活用。 ○担任と教育相談コーディネーター、特別支援教育コーディネーター、カウンセラーの連携による不登校支援。
学習面・行動面で配慮を要する児童への対応・体制を工夫・改善・充実させるとともに、研修を通して教員の指導力を高める。	○配慮を要する児童への対応についての研修会を年間３回実施する。	○配慮を要する児童のニーズや一人一人を伸ばす指導について研修を行い、共通認識のもと、組織的な指導が進められるようにする。 ○個別の支援に当たっては、通級指導学級教員との連携により、効果的な指導方法と個別の指導機会の充実を図る。
個別に支援が必要な児童に対して、全教員の共通理解のもと、効果的な指導が展開できるようにする。	○個別支援にかかわる情報交換を月１回以上実施する。	○担当教員・専門員・コーディネーター・カウンセラーの密接な連携により、効果的な指導方法と個別の指導機会の充実を図る。